

たより



第 18 号

平成 25 年度夏季教職員研修講座・教育講演会・県との連携講座

【小野次朗先生を迎えて】（和歌山大学教授）

特別支援教育

「発達障害のある子どもたちの理解と支援のあり方」

8 月 9 日(金)、小野次朗先生を初めて伊勢市にお迎えし、教職員のみなさん、保護者・市民の方とともに 275 名で講演を聞かせていただきました。

小野先生は、小児科医としての経験をもとに、「発達障害とは?」「発達とは?」という段階から丁寧にお話しくださいました。

発達とは? 発達障害とは?

「子どもは成長していく過程で、さまざまな側面の発達を示します。しかし、それぞれの側面において、典型的な発達を示さないとき、発達障害を疑うのです。」と小野先生は切り出され、発達障害を下記のように整理して提示されました。

知的障害（精神発達遅滞）...知的側面

肢体不自由（脳性まひ）...運動面

学習障害...学習面

注意欠陥多動性障害...注意持続

広汎性発達障害...複数の領域

社会性
対人関係
コミュニケーション
想像力

発達障害者支援法
(2005 年 4 月 1 日施行)が
おもに対象とする障害



先生は、「**障害は理解と支援を必要とする個性（特性）である。**」ととらえておられます。そのことを踏まえ、「私たちの身近に、こんな子どもはいませんか?」と問われました。思い当たることがあると感じられた方が多かったです。



こんな子どもいませんか?・・・小野先生のスライドより

話していると全く普通の子、勉強もまあまあできる

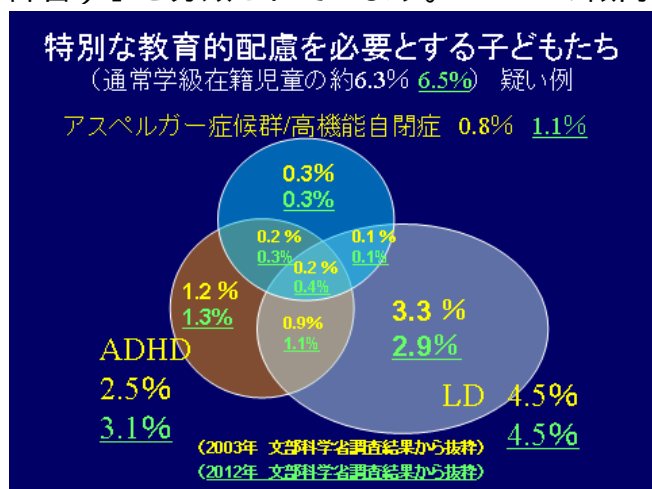
しかし、本読みがやたら下手・漢字を書くことがとても苦手・英語の音読ができない...

ひとところにじっとしてられない・よくけがをする・やたら、人にちょっかいをかける...

よく持ち物をなくす・人が話しかけているのに聞いていないように見える・部屋の片づけができない...

予定が変わるととても怒る・視線が合いにくい・一方的にしゃべる・一部の教科だけ興味をもつ...

の傾向については、「学習障害」・ は「ADHD（注意欠陥・多動性障害）多動性・衝動性優勢」・ は「ADHD不注意優勢」・ は「広汎性発達障害（知的障害のない発達障害）」と分類されています。 ~ の傾向のある有名人も紹介されました。



次に紹介されたのは、「通常学級に在籍する特別な教育的配慮を必要とする子どもたち」の割合です。(当日配付資料より)

2012年の文部科学省調査結果では、通常学級在籍児童の約6.5%に発達障害の疑い例があるということです。他にも、男女の割合を見ると、男子にその傾向が強いことや、中学校では学年別の割合平均が4.0%と小学校よりも低くなるという結果を紹介していただきました。

特別な教育的配慮を必要とする子どもたちが持つ共通した特徴

子どもたちのわがままや気ままではない。脳の機能異常が原因と考えられている。

「がんばりたいけど、がんばれない」のだと理解したい。

叱られることが多い。褒められることが極端に少ない。

できるだけ無駄な叱り方をしないようにしたい。



軽度発達障害と呼ばれる子どもたちの「**軽度**」の意味についても、興味深い視点をお話していただきました。「軽度」とは、決して「軽い」という意味ではなく、「大人が気づきにくい」「子どもたちからすると気づかれにくい」というとらえが必要だということです。そして、私たちが心がけることは3つです。

「障害・疾患**そのもの**」については「**知識**（無知ではいけない）」を持つこと。

「障害・疾患**のある子**」については「**気づき**（見逃さない）」が必要なこと。

「障害・疾患**もある子**」については「**支援**（無責任ではいけない）」をすること。

決して子どものマイナス面だけをとらえるのではなく、プラス面もより多く考慮に入れ、「**いいところ探し**」をすることが大切であると小野先生は話されました。それを支えるのは、「**時間的余裕と心の余裕**」です。

学習障害とは？

基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

(学習障害(LD)の定義(文部省)1999年)

学習障害(LD:読字障害)の場合、脳の頭頂葉連合野とも呼ばれる視覚・聴覚・触覚などの感覚を統合して一つの情報としてまとめていく働きがある「39・40野」に機能障害が

あると考えられているそうです。読字障害のある子どもにはどのような指導ができるのか、いくつか具体例を挙げていただきました。

【支援の具体例】

複数の器官を利用して学習する...字を書くとき、声に出して書かせる。

作文が苦手な子どもには、「いつ・どこで・だれが・なにを・どうした・思ったこと」など、書く項目に合わせて枠を作り、その中に書かせる支援をする。

読むことが苦手な子どもには、分かち書きや、文節を○で囲んで支援する。(その日は朝から雨がふっていた。)
音声情報だけでなく、板書などを使って視覚化して支援する。



ADHD(注意欠陥多動性)のタイプと診断基準-DSM-IV(アメリカ精神医学会精神疾患に関する診断と統計マニュアル第4版)

ADHDについても、医学的な資料を提示していただきました。

不注意優勢型...のび太タイプ(6項目以上)

学業、仕事、またはその活動において、しばしば綿密に注意することができない、または、不注意な過ちをおかす。

課題または遊びの活動で注意を持続することがしばしば困難である。

直接話しかけられたときにしばしば聞いていないように見える。

しばしば指示を最後まで聞かず、学校の宿題・命じられた家事・または職場での義務をやり遂げることができない。

課題や活動を順序だてることがしばしば困難である。

精神的努力の持続を要する課題に従事することをしばしば避ける、嫌う、またはいやいや行う。

課題や活動に必要なものをしばしばなくす。

しばしば外からの刺激によって容易に注意をそらされる。

しばしば毎日の活動を忘れてしまう。

多動-衝動優勢型...ジャイアンタイプ(6項目以上)

しばしば手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする。

しばしば教室や、そのほかの座っていることを要求される状況で席を離れる。

しばしば不適切な状況で、よけいに走り回ったり高いところへ上がったりする。

しばしば静かに遊んだり余暇活動についたりすることができない。

しばしば“じっとしていない”または“せかされているかのように動き回る”

しばしばしゃべりすぎる。

しばしば質問が終わる前にだし抜けに答えてしまう。

しばしば順番を待つことが困難である。

しばしば他人を妨害し、邪魔する。



もしも、子どもに発達障害があるということに保護者も教師も気づいていなかったとしたらどうでしょう。子どもの表面に見える様子だけをとらえて、「なぜ、そんなこともきちんとはできないの?」「わざと嫌がらせをしているの?」と怒りをぶつけてしまっているかもしれません。しかし、本当はわざとでも何でもなく、脳の機能障害でできないのだとするととても残酷なことです。そこで、小野先生が念押しされるのが、「気づくこと」と「指導者が自己の怒りをコントロールすること」です。「怒りのコントロール」の対処法として(タイムアウト・方向転換・問い合わせ・プロセスの実況中継・確かめる・思い込みを乗り越える など)を挙げておられます。(「怒りのセルフコントロール」)

ADHD 児に認められる「**二次障害**」にも配慮する必要があると、小野先生は話を続けられました。発達障害についての理解がないことが下記の状況を誘発してしまうのです。

反抗（反抗挑戦性障害（ODD）、行為障害（CD））

自尊感情の低さ

二次的な学力の低下（LD との混同）

これらのことが重なると、子どもが不登校になることも考えられます。

ADHD の薬物治療

ADHD の場合、前頭前野におけるドパミン作動性神経細胞が年齢に見合った働きをしていないと考えられています。そこで、薬物治療も有効であるとされています。

薬物治療（中枢神経刺激剤）

- ・メチルフェニデート（リタリン コンサータ）
- ・ADHD 児童・生徒の 7～8 割で有効
- ・覚醒作用がある
- ・ADHD 児童に投与する場合、依存症は少ない
- ・持続時間はリタリン約 4 時間（コンサータは約 12 時間）
- ・副作用としては、消火器症状（腹痛・嘔吐・食欲不振など）が約 1 割に認められる。
- ・その他、チック・不眠など。

薬物治療（非中枢神経刺激剤）

- ・アトモキセチン（ストラテラ）
- ・ADHD 児童・生徒の不注意・多動性・衝動性で有効、うつなど二次障害に対しても有効
- ・依存症はない（処方医師に資格は必要ない）
- ・持続時間は 24 時間
- ・効果は投与開始 2 週間から認められ、6～8 週間で最大に達する。
- ・副作用としては、頭痛・食欲減退・傾眠・腹痛・悪心など。

小野先生は、医師としてすべてを薬に任せるのではなく、「薬を使用して『子どもさんの本当の力』を見ていきませんか。」と伝えているそうです。例えば、薬を服用するまでは、力があるのに座っていられなかった子どもが座っていただけるようになり、落ち着いて授業が受けられるようになるのです。隠れていたものを薬でパッチリさせることができたという例がたくさんあるとのこと。

ADHD の子どもについてのペアレントトレーニングの考え方

「ペアレントトレーニング」とは、しつけの難しい ADHD の子どもをもつ保護者（療育者）たちが、正しい子どものしつけ方を身につけるためのトレーニングのことです。叱られることの多い子どもを「褒めること」がこのトレーニングの大事な考え方です。

【A 悪循環のとらえ】

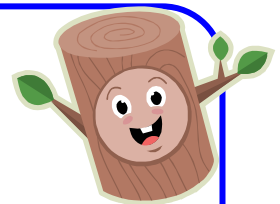
多動の子ども

- 困った子だ（焦り・混乱）
- 手に負えない（無力感）
- 厳しい罰（自己嫌悪・自信喪失）
- 温かみのある関わりを失う（拒否感）
- 反抗・強情・言い争い（怒り）
- やっぱりこの子は！（他罰）

【B 好循環のとらえ】

多動の子ども

- 元気な子だ（余裕）
- 頼もしい（期待感）
- 称賛する（納得）
- 温かみのある関わり方（肯定感）
- 協力・認め合う（喜び）
- この子はすばらしい！（褒美）



多動傾向の子どもと向き合ったときに、「困った子」ととらえるか、「元気な子だ」ととらえるか、ここに視点の分岐点があります。視点を変えて余裕のあるとらえ方ができると、その子の様子や行動を肯定的にとらえて褒めることができるのです。それを続けていくうちに「褒められる良い行動」が増え、親子関係がスムーズになるということです。

小野先生が提案された関わり方のおまじないは「**CCQ**」です。

C:Calm(穏やかに) **C**:Close(近づいて) **Q**:Quiet(静かに)

広汎性発達障害について

続けて小野先生が提示されたのはイギリスの児童精神科医ローナ・ウィングの「3つ組」です。診断へのきっかけとなる内容項目が整理されています。

障害の種類	いわゆる自閉症 (自閉性障害)	高機能広汎性発達障害 (知的障害のない自閉症)
社会性・対人関係	視線が合わない	人の気持ちが読めない 場の雰囲気が読めない
言語・コミュニケーション	ことばが出ない (エコラリア...オウム返し)	独特のトーンの話し方(感情がこもらない) 方言が話せない
想像力	こだわり、パニック	才能とも呼べる能力 (虫博士など)

自閉症の子どもは大きな不安を抱えている

- ・認知能力に機能障害があるため、周囲の状況が理解しにくい。
- ・情報処理能力が不十分で、瞬間的・直接的に状況が把握できない。
- ・これから起こることへの予想がつきにくい。
- ・感覚過敏のため、予想以上の苦痛を感じている。
- ・パニックなどを起こした場合、本人が最もつらい思いをしていると考えられる。

だから

【自閉症児・者への対応の基本は？】

紛らわしい表現は避ける
 会話ではなく、書くことを利用する
 指示を文書で行う
 相手の思考の独特さを理解する
 焦らせず、ゆっくりと待てる余裕
記録を残すことが、行動の原因や傾向をとらえるうえで有効。

最後に、小野先生から私たちへのメッセージをまとめます。どれも、心に響く言葉です。

「問題行動には『理由』(わけ)」があるのです。「困った」子どもではなく、「困っている子ども」の視線に立って考えることを私たちは心がけなければなりません。」

「特別支援教育7年、皆さんの中で何か変わりましたか？最も変わらなければいけないのは、教員の発達障害に対する眼差しだと思っています。」

「小児科医は子どもの**命**を守ります。教員および支援者は子どもの**人生**を守ります。」

【高機能広汎性発達障害児の支援は？】

認知面からの支援

TEACCH プログラム

応用行動分析学

ソーシャルスキルトレーニング

ソーシャルストーリー

コミック会話

アンガーマネジメント(怒りのコントロール)

用語解説

アメリカノースカロライナ大学の故ショプラー博士によって創案された自閉症の人たちとその家族に対する治療・療育・就労・生活支援のプログラム。自閉症の人が自閉症のまま健康に、幸福に、そして可能な限り自立した活動をしながら私たちと共生・共働し、自分らしく地域の中で生きていけることをめざす。(緑の風HP)

アメリカのキャロル・グレイが提唱し実践している自閉症の子どもたちの特性をとらえて作られたテキストを使ったソーシャルスキルを学ぶ方法。テキストには基本的に1つの絵とその絵が表す出来事が短い文章として書かれ、その文章を子ども自身が読んで(文字の読めない小さい子どもの場合は読んであげる)学べるというもの。目に見えないルールや対人関係を文章にすることで見えるようになり、視覚的に情報を伝えられること、また構造化されることで理解しやすくなるという特徴をもっている。(奈良教育大学特別支援教育研究センターHP)

のグレイの紹介による。人物を線画で描いて、吹き出しの中に言葉を入れていくもの。そのとき話した言葉や思ったことを吹き出しの中に書くことで、会話の意味や相手の気持ちを改めて整理することができ、コミュニケーションを明確にしていけることができる。(育てる会会報HP)

保護者・市民・教職員が「発達障害のある子どもたちの理解と支援のあり方」についてともに考え、学ぶ機会がもてたことをたいへん嬉しく思います。それぞれの場で、「子どもたちの人生を守る」関わりを進めていくことが大切であると再認識しました。



みなさんのアンケートから

具体的でわかりやすく、すぐに役立てられることがいっぱい、目からウロコの情報もたくさんありました。子どもたちの人生を守っているとの言葉、しっかりと心にとめておきたいと思います。また、ぜひお話をうかがいたいです。（小学校教員）

「いいところさがしをまずすること」が心に残りました。まず「Good!」それから「ここをもう少し」というところ、余裕が必要というところで、ふだん余裕なく接していることを反省しました。（小学校教員）

怒りのコントロールは自分に必要なことでした。今までの自分をふりかえる機会になりました。（小学校教員）

講演を聞きながら学級の子どもたちのことを考えていました。読むことや文章を書けない子たちへの支援、スモールステップが本当に大事だと思いました。（小学校教員）

「困った子ども」ではなく「困っている子」、「教員および支援者は子どもの人生を守る」という言葉が印象に残りました。（小学校教員）

発達障害のある子どもたちについて、医学的見地から詳しく説明していただき、いかに理解し、支援していけばよいかがよくわかりました。いろいろなたとえ話を節々に活用してくださったおかげで、話がとても聞きやすかったです。（小学校教員）

すばらしい講演会でした。学習障害の中に見逃しがあること、気づいたら工夫すること、記録を残すこと、タイマー等も使用することなど、目に見えない子どもの特性をさがし、その子に合った支援をしたいと思います。（中学校教員）

無知・無責任な先生には絶対にならないように、子どもたちのよいところを見つけ、しっかり理解していこうと思います。（幼稚園・保育園（所）教員）

高校の先生方にももっと教育講演を聞いてほしいです。まだまだ理解してもらえないので。（高校教員）

基本的な事項から色々な具体例まで、たいへん勉強になりました。特別支援が必要な（医療機関に関わっている）生徒もいれば、中学校からいろいろ支援が必要と申し送りのあった生徒もいて、いろいろタイプも異なり、日々試行錯誤です。普通科の高校ですが、そのような生徒にも十分な支援をしていきたいと考えており、今日はとても参考になりました。（高校教員）

すごく楽しく分かりやすい講義でした。自閉症の息子だと分かっているのに、毎日毎日怒っている私。理解しているつもりが、やっぱり理解が足りないんだなとつくづく反省していました。もっと優しくもっと褒めてやろうと思いました。（市民・保護者）

もっと時間がほしいくらいでした。独学では理解できなかった部分が、たくさん勉強できました。気づき、理解し、温かく支援する。そんな理解者が増える社会であつたらいいと思います。そのために、もっとこのような講演会が開かれることを願っています。すばらしい講演会でした。（市民・保護者）